

旧大陸における古代文明の発祥地として知られるエジプト、そこではナイル川の氾濫がもたらす豊かな土壌のもと、農耕や牧畜が早くから成立し、氾濫を予測・観測するための天文学も発達しました。その結果として、巨大なピラミッドなどのモニュメントを抱える統一王朝が成立したと考えられてきました。しかし、そこではメソポタミア文明のような都市の重要性はさほど認められておらず、同じ旧大陸文明でも大きな違いが認められます。南米アンデス文明においても、都市の重要性は初期には認められず、その意味でも、メソポタミアよりも、エジプトに近い形の文明形成過程が予想されます。しかし、このイメージは果たしてどこまで正しいのでしょうか。今回のフォーラムでは、両地域で長らく研究に携わってきた考古学者を招いて、最新の調査成果を報告してもらうとともに、従来の古代文明観が揺るぎないものなのかどうかを再検討し、両古代文明の特性について、とくに経済面に注目して討論していきたいと思います。

ワークショップ

古代文明の生成と経済的基盤 エジプトとアンデス

■日時 2015年1月24日(土) 13:00～18:30

■場所 東京大学総合研究博物館ミュージズホール

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内

【定員】50名(先着順、事前申込制)【参加費】無料

【プログラム】

13:00～13:30 趣旨説明

関 雄二(国立民族学博物館)

13:30～14:30 「アンデス文明形成期における神殿と資源利用ークントウル・ワシ遺跡の事例から」

井口欣也(埼玉大学)

14:30～14:45 休憩

14:45～15:45 「エジプト古王国時代のピラミッドと経済システム」

河合 望(早稲田大学高等研究所)

15:45～16:45 「エジプト初期国家形成期の経済発展」

高宮いづみ(近畿大学)

16:45～17:00 休憩

17:00～18:30 総合討論

井口欣也・河合望・高宮いづみ・関雄二

【主催】

科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見た
アンデス文明史の再構築」(代表:関雄二)

【参加申込先 および 問い合わせ先】

国立民族学博物館 関研究室

TEL: 06-6878-8252

E-mail: sekiken@idc.minpaku.ac.jp



本郷キャンパスの「懐徳門」(かいとくもん)を入って右手正面が博物館入口です